

林大だより



第62号 平成23年10月31日

長野県林業大学校翌協会



2 学 年 オーストリア研修 チロル・亜高山性樹木養苗圃場



1 学 年 屋久島研修（縄文杉）



2 学 年 高性能林業機械研修（岐阜県立森林文化アカデミーとの交流）

今、思うこと

翌松会会長 手塚 隆久



娘が入学し、私も翌松会の副会長、会長という役をいただきました。早いもので一年半が過ぎました。日頃、校長先生をはじめ、教職員の方々の温かな眼差しに包まれながら、子供たちも学業と寮生活という団体生活の大切さを学ばせていただき、本当にいろいろとお世話になりました。心より感謝申し上げます。

最近では、自然災害の恐ろしさを感じさせられる出来事が多く、自然の力の前では人間の力がどんなに無力かということに改めて痛感しました。特に、東日本大震災での津波の恐ろしさは、山中で暮らしている者にとっては想像がつかません。そして、復旧作業に



平成23年度 入学式

るのです。人生にはいろいろな試練が付きものです。でも、絶対に乗り越えられない試練はないと思います。今後の人生の中で、試練にぶつかった時には、あきらめずに前に進んでいってほしいもの

計画を立てて良き人生を！

長野県林業大学校長 中村 慎



です。必ず明るい光が見えてくるに違いありません。一年生は入学してから半年が過ぎ、学校生活にも慣れてきたことでしょう。二年生は残すところ半年ですが、それぞれの進路に向け日夜頑張っ

保全生態学で著名な鷲谷いづみ先生（東京大学大学院教授）は、大の「朝ドラ」（NHKの朝の連続ドラマ）ファンだ。先生にご講演をお願いした際に食事をご一緒したことがあるが、「仕事や家事、育児などでどんなに忙しくても、『朝ドラ』だけは毎日見るようにしている。」と語っておられた。そんな縁もあってか、いつの間にか、私も熱心な「朝ドラ」ファンとなった。

「朝ドラ」は東京局と大阪

局とで交互に制作している。どちらかというところ、私は後者のほうが好きだ。ストレートな表現と隠された「仕掛け」によって気づかされるものところが微妙に織り交ざっているところがたまらない。尾道と大阪を舞台にした「てっぺん」も、感謝する気持ちの大切さと家族愛をテーマにした秀作だったが、いろいろな「仕掛け」に何度も何度も泣かされた。

放送が終了したばかりの「おひさま」も、愛らしい陽子の人

ていることでしょうか。会長として力不足でいたらない点が多々ございますが、私なりに最後まで役目を務めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。

柄と信州を舞台にしたことが重なる大変な人気だった。その「おひさま」も、夢をもつことの大切さと家族愛をテーマにしたドラマだったように思う。中でも印象深いのは、ヒロインの井上真央さんたちがよく口にしていた「良き人生を！」という言葉だ。もちろん、人生の良し悪しは、一人ひとりが持つている価値観で決まるものだ。も



厚生労働大臣感謝状の贈呈（献血推進）

し、「良き人生」を歩むことに共通するものがあるとすれば、それは、「過ぎ去った時間は戻らないことを知る」ことなのかもしれない。

テレビの話ばかりで恐縮だが、某地方銀行のテレビCMに、若槻千夏さんが甲高い声で「計画を立てよう。」と叫ぶものがある。毎日こつこつ

木曾の若葉

信州大学 准教授 石川 厚



六月九日の化学の講義のあと、一年生の学生さんより話しかけられた。植樹祭の折、新緑の阿寺溪谷へ行つたという。渓谷の清々しいエメラルドグリーンの水の流れに心惹かれたようだ。渓谷の水がエメラルドグリーンに見えるのは、不思議でその理由を知りたいとの事だった。水には本来、色があり、水の色はエメラルドグリーンであるという

努力すれば、一年後にはピアノでも絵画でもすぐく上達するという内容だ。

学生諸君にとって、林業大

学校の二年という在学期間は、これまで経験したことのない短いものだ。それだからこそ、「計画を立てて」「良き人生を！」と願ってやまない。

のが答えであるが、これでは納得できないに違いないので、翌週に実験をみせることにした。二メートルのパイプに蒸留水を満たし、その一方の端からスライドプロジェクトの白色光を照射し、もう一方の端の出口に青緑色を見る光の透過実験である。水は、白色光の成分の内、赤の成分をわずかに吸収して、二メートルのパイプの先に青緑色をみせる。一メートルのパイプを使えば、赤色の吸収量が減り、薄い青緑色になる。太陽光が阿寺溪谷に差せば、太陽光は清流の水を透過しながら赤色を減らし、浅い川底の石

で反射し、再び清流を透過して赤色をさらに減らし、青緑色が我々の目に届く。海や水河の青緑色も同様に説明が出来る。青緑色の原因は水分子であるので、液体でも固体でも水は青緑色である。塩分が溶けていても水の色は青緑色である。

一年生は林業大高校に入学した四月に屋久島へ行く。エメラルドグリーンの海に感動したそうである。屋久島の海水は大変きれいなので、海が翡翠のように見えるとガイドさんから説明を受けたという。まさに、その通りである。

我々は、日常、水を手洗い、洗顔、風呂、洗濯、炊事に使っている。水を手ですくってみれば、水は無色透明である。屋久島の海水も阿寺溪谷の清流もすくってみれば、無色透明である。大海や清流の青緑色を人間の小さな手の中に収めることは出来ないのがある。水分子は振動しながら赤色を極めてわずかながら吸収する。光が数メートルの水の層を進むと水分子の赤色吸収が積み重なって、やっと青緑色が現れる。

林業大高校の学生諸君は二

林業従事者の誇りのよりどり

国連工業開発機関(UNIDO) 再生可能・地域エネルギーユニット、アソシエイト・エキスパート、国際応用システム分析研究所(IASA) 国際応用システム管理プログラム、生態サービス管理プログラム、客員研究員

青木 健太郎



年間の全寮生活で日々少しずつ学問と林業を学び修養を積み重ね自らの人格を創ってゆく。光吸収を積み重ねた大海や清流の翠緑のように、渓谷

の若木が新たな年輪を加えてゆくように、学生諸君一人一人がそれぞれにたくましく、あるいは清らかに成長する事を願っている。

私は高校生の頃、森と関わる仕事に携わりながら一生を送りたいと思い、信州で林学の勉強を始めました。高校生の当時の一九九二年はちょうどブラジルのリオ・デ・ジャネイロで国連世界地球サミットが開かれた年で、環境と開発に関する議論が盛んに行われ、熱帯林破壊や温暖化の問題が大きく取り上げられていた時でした。

私は現在ヨーロッパの山国オーストリアで、持続的な林業と再生可能エネルギーに関する途上国開発支援の仕事に

携わっています。来年はそのリオの会議から二十年目に当たります。残念ながら、世界の環境問題は更に複雑になっています。例えば、どうやって熱帯林の減少を食い止めつつ、かつ温室効果ガスの排出を安定化させながら途上国を豊かにすればいいのか、という質問に対して、私たちは現実的な答えをまだ持っていない。

いま、環境と人間活動のバランスの崩れをどのように持ち直せばいいのか、そもそも現在の価値観の中でそれが可能なのか、議論だけでなく、実証するためのアクションを起こさねばならない段階に来ています。

林業という生業はそもそも自然資源の優しい扱い方を

自然資源の優しい扱い方を

知っている生産活動です。言い換えると、長い目で森を見つめ、次の世代のことを考えながら森を作ることです。先人たちは、国土をなるべく荒廃させず、森林が持つべき機能を維持しながら、人が明日の糧を得るための森作りを行ってきたていました。私たちがいまやるべきことは、これからの時代に即した、次世代のための森作りを現場レベルで実践する、ということなのです。

— そのための万能なレシピというものは残念ながら無いと思います。いろいろな要素を統合させて、従来の常識とは異なる方法で試行錯誤を繰り返す必要もあるでしょう。答えは一つではなく、幾つもあるかもしれません。その中で、森林の多様な価値をどの位林業活動の中に組み込んでゆけるかが重要です。

日本の林業の状況はどんどん厳しくなっています。社会に出てからも壁にぶつかるこ



オープンキャンパス (ガイダンス)

とも多いかもしれません。ただ、何でもすべて一人で行おうと思うのではなく、がつぶり組める良い仲間を作り、同じ夢を一緒に大切にしながら力を合わせてゆくと大きな山が築けます。林大で二年間寝食共にした仲間は大事な財産です。

これからも、林業の新しい道を見極めるために学び続け、失敗を恐れず、夢に向かってアクションを起こす、プロ意識と勇氣、そして仲間を大事にしていくって下さい。

学生のページ

あすなるの呟

つばやき

学校・寮生活から

これからの自分



1 学年 飯田 晴花

林大に来てからもう半年が経ちます。入学してからはしばらくは新しい生活に慣れるのに精一杯で、毎日のやるべき事をこなしていくのに満足していません。けれども友達にも恵まれ、林大での生活にかなり慣れてきた今、今日や明日の事だけを考えていれば良い、という訳にもい

ないものはおぼろげには持っています。それを実現するためにはどうするのが良いのか、それが分かりません。けれども、こうすれば絶対にこの目標を実現できる、なんて答えはないと思うので、まずは自分が一番やりたい事とは何かと冷静に考えてみようと思います。そしてそのためにも、色んなことに首を突っ込



1 学年 救急救命講習

大会が始まり、一区の三川君が、大健闘し惜しくも二位で二区に襷を繋ぎ、二区では勝久さんが一人抜き、一位で三区に襷が繋がりました。一緒に練習してきた勝久さんの勇姿に刺激され、僕は一位を獲得しかならないと思いました。三区の公彦さんから、渡辺君・梶田君と一位をキープして襷が最終区の六区に繋がれ、僕はその順位のままゴー

み、色んな人と関わって、自分の視野をもっと広げていきたいです。

第十九回 木曽福島駅伝大会



1 学年 岸田 聖司

十月二日に駅伝がありました。僕は高校で陸上をやっていたので、入学前からこの大会でチームの力になって優勝したいなと思っていました。夏休み明けに選考会があったので、そこで僕はAチームのアンカーをやらせてもらえることになりました。

ルし、優勝することができました。

ゴールした時は最高に嬉しかったです。先輩たちと走れるのはこれが初めて最後だったので、その駅伝で優勝できて本当によかったです。勝久さんをはじめ、いろんな人との約束だった区間賞を獲ることもできました。

林大の仲間全員が優勝を喜んでくれて最高の思い出になりました。ご褒美の焼き肉美味かったです！



1 学年 菅井 美恵

振り返ってみて

四月に入学し、振り返ってみるとたくさんの思い出が生まれました。入学前は本当に怖くて不安でしたが、今は、毎日楽しく入学前の不安がどこ

1 学年 造林学 (下刈実習)



かに吹っ飛びました。

最初の屋久島研修の機会に男子に話しかけ易くなりました。私は人の名前を覚えるのが苦手で最初は本当に苦労しました。一番驚いたのが一年生の男子三人が同じ髪型で同じ顔にしか見えなく、どうしようかと思うくらい三人を見分けて覚えるのに苦労しました。

けれど今は、全員の顔と名前を覚えることが出来て本当に安心しました。実習のと

林業大学校での生活



1 学年 高柳 秀行

長野県林業大学校に入学して、早くも半年が経ちました。入学当初は寮生活への不安などありましたが、今は楽しく充実した毎日を過ごしています。

林業大学校の授業は主に実習を行うと思っていました。が、実習が少なく想像と少し違っていました。しかし、高

きに重たい荷物を持つてくれ、授業で苦手な所を教えてください、私が悩んでいると相談に乗ってくれる先輩方や友達がいて本当に感謝です。「林大の人たちはホントに優しい！」と友達と会話中に良く言うし良く聞きます。

ここで出会った人たちを大切にしたい。そして、たくさん思い出を作ってみるまで林大を盛り上げていきたいです。

校では学ばなかったことを授業で扱っていて、林業の知識の無さを実感しています。最近になり少しずつ実習が増えてきて、とても充実した授業を受けることができています。

十月には、林業大学校の最大イベントである寮祭があります。寮祭を経験したことがないので、何をしたらいいのかわかりません。しかし、来年には今年の先輩のように、後輩を引っ張っていかなくてはならないので、寮祭を楽しみながら、来年のためにやる

べきことをしっかりと学びたいと思います。

自分がやりたい事を見つけて



1 学年 松島 俊一

私が東京の親元を離れて林大に来てから早半年が経って今、思うことは、『自分はいったい何がしたいのだろうか?』という漠然とした思いです。



1 学年 森林土壌学 (土壌調査実習)

林大は座学だけでなく実習も豊富にあり、二年間を通して森林、林業、木材やその他諸々の事が学べます。色々な事を知れば知るほど、かつて的林大の先輩方も悩んだであろう自分のやりたい事を私も模索しています。

将来についてゆつくり考えられる時間があるのは学生の特権だと私は思いません。林大には話を親身に聞いてくれる先生もいるし、同級生、先輩の皆と話す機会が多いのも寮生活の良い特徴です。

林大の仲間



2 学年 伊藤 大輝

林大に入学してもう一年半が過ぎました。入学した頃はうるさく感じた毎朝流れる中乗さんにも慣れ、ラジオ体操も面倒に思わなくなってきました。今思うと入学する前は、寮での生活がとても不安でし



1 学年 特用林産学（炭焼き実習）

た。でも先輩方は優しいし、同学年の友達も良い人ばかりで、すぐに打ち解けられました。寮生活では、食事も風呂も遊ぶのも常に仲間と一緒にです。たまに一人になりたいと思ふ事もありましたが、やっぱり仲間と一緒にいる時が一番楽しいし、充実しています。

普段から常に一緒に生活をして、同じ林業という目標を目指して勉強してきた仲間は、中学や高校の友達とは少し違い、家族のように思えます。林大での生活もあと半年になってしまいましたが、こ

れからも仲間と仲良く楽しく過ごしていきたいです。

二年間で印象に残ったこと



2 学年 清野 達朗

私はこの二年間林業大学校の学生として、様々な体験をしてきました。その中でも特

に記憶の強く残ったことは、オーストリアへと研修に向かったことです。

日本と同じ森林所有量の上位国であり、かつ、先進的な働きをしているこの国は非常に刺激に満ち溢れていました。数千メートル級の山岳をいくつも有している大規模な自然公園や国が主体となつて



2 学年 免許取得（車両系建設機械）

動かしている森林施業、また、州一つのエネルギーをクリーンエネルギーでまかなうという試みの成功例など枚挙にいとまがないほど興味が引かれるものが存在していました。最近まで森林の重要性が捨て置かれており、その管理が難しいなど日本と似通った問題



2 学年 木材商業論（勝野木材研修）

点もありますが、努力すれば到達できることであるという話も聞きました。そのこともあり、日本でもクリーンエネルギーの技術提携をはじめ様々な部分を混ぜればいいのではないかと考えています。その他にも外国の雰囲気を感じることが出来たことは、これからの人生の価値観を形作っていく上で大変なる物でした。





2 学年 免許取得 (車両系建設機械)

最後に、後わずかな林大での生活。一生の友人とかわいい後輩たちと最高の思い出を作って卒業を迎えたいと思います。

アでの研修など実際に見て体験することで教科書からは見えないものを感じることが出来ます。そして、現地で働く方などの考えを聴くことが一番勉強になりました。

長野県林業大学校に入学して約一年と半年が過ぎ「光陰矢のごとし」とはこのことだと最近よく実感します。入学当時は思い出すと、私が入学したことは言葉のイントネーションと方言が違い、林大に来て通じなかったことです。友達は面白いから



2 学年 豊永 将士

林大は
よかといばい!

そのままがいいと言ってくれたのですが、自分としては少し恥ずかしかったことを覚えていますが。しかし、今では友達、先輩は「ぎゃー、よか〜」などと真似して仲良く林大生活を送っています。

次に、林大に入学して私は森林・林業に対する様々な考えを持つようになりました。そのきっかけとなったことは、色々な考えをお持ちの講師の方や多くの実習や研修で自分の知らない森林・林業の世界があったからです。特に実習・研修の多い林大では治山工事の見学や枝打ち、下刈りの実習、またオーストリアでの研修など実際に見て体験することで教科書からは見えないものを感じることが出来ます。そして、現地で働く方などの考えを聴くことが一番勉強になりました。



2 学年 林業架線実習 (林大演習林)



2 学年 堀部 泰正

林大の良いところ

林大の寮は狭く、さらに、一部屋四人というプライバシーが全くないという点ではない。

つい先日、岐阜の森林文化アカデミーとの交流があったのだが、アカデミーは全寮制ではないため毎日と一緒に過ごすことはないだろう。だが林大では毎日三十八人の男女がひとつ屋根の下で男女関係なく楽しく生活している。そんな生活を続けているうちに、みんなの見方が友達という一面やもう一つの家族という考えが生まれてきた。それは全寮制でなければありえないことだと思う。

あと半年で卒業してみんな離れ離れになってしまうけど、林大で生まれたこの関係はおじいちゃんになっても続くんじゃないかなと思う。最後の学生生活は、みんなと楽しく充実した日々にしていきたい。これからもよろしくね。



2 学年 オーストリア研修 (チロル・雪崩防止事業地見学)

保護者の
ページ

絵

の

一言

夢に向って

梶田 伸二



「林大を受験する。」それを聞いたのは、息子が高三の時でした。同じ長野県に住んでいて、林業大学校の存在を知りませんでした。「何処に有るの?」「何年制?」

分からぬ事ばかりでした。息子は、小さい頃から祖父の影響からか、盆栽に興味があり、小学校の帰り道に、近所の盆栽好きの方の所に寄って来る事が有りました。中学の職場体験では、造園会社と、木と自然が大好きな子供でした。



2学年 県植樹祭参加 (塩尻市 高ボッチ高原)

無事に林大に合格し、林大生となり、半年が過ぎました。初めての寮生活に不安を感じましたが、先生方、先輩、仲間にも恵まれ、楽しく過ごしている様です。週末には、車で帰ってきますが、若葉マークなので、親としては心配です。しかし、自分の好きな事を学べるのは、とても幸せな事だと思えます。これからも、林大生として自分の思った道に向って頑張ってください。

森林からの学び

小山 浩子



自然の中で遊ぶ事が少なかった息子が森林に目ざめたのが中学生頃。その頃から自分の進む道を決めていた様で知識や専門的な資格を取得す

日々明朗、日々努力

須藤 美雪



息子が林業大学校に入学して半年が過ぎました。ちゃんとやっていけるのだろうか心配でしたが、すぐに友達もでき、ソフトボールと野球のチームに誘っていただいた様

る日々の高校、そしてこの「林業大学校」と揺らぐ事なくあつさり決めて来ました。全寮制という事で自分も胸高なりながらの入学だったと思います。今は友達、先輩方にも恵まれ大変楽しい日々の寮生活を送っている様子が話の中から感じられますが、その反面学業の方では先生方を困らせていないか心配です。地域の方にも大変お世話になっていているとの事。

さった方々への感謝の気持ちを忘れず、地に足を着け一歩前進していく事を願います。

夢に向かって

常盤 悦男



早いもので四月に入学してすでに半年が過ぎました。高校在学中は、和太鼓に夢中になり朝早くから夜まで練習していた娘が、東京から遠く離れたこちらにお世話になるというではないですか、それも全寮制。やっていけるものなのか心配していましたが、親の心配をよそに娘は毎日楽しく勉強しており、寮での生活も楽しく過ごしているのと、大変ありがたいと思っています。

娘は以前から自然環境が豊かなところで働きたいというのが夢でした。就職も長野ですと言っているくらいに長野の環境が好きなようです。

その夢に向かつて今は一生懸命勉強しているのだと思います。在学中の二年はずごく短いと思います。あつという間に過ぎてしまふでしょ。後悔しない学生時代を送ってほしいと娘には思います。

学校の先生方にはいろいろご迷惑をまだかけると思いますが、これからもよろしくお願いします。

子供に寄せる思い

湯之上勝美



この四月に長野県林業大学校に子供をお願いして、早いもので半年がたちます。私は、長野県の飯田市で生まれ育っているが、木曽の地に林業大学校があることを知りませんでした。飛騨高山高校の環境科学科にお世話になっていた子供は、仲の良いほんどの友達が岐阜県立森林文化アカデミーに進路を決める中、担任の先生が探して下

さつた長野県林業大学校へ行くきたいと言われた時、正直心配と不安でいっぱいになりました。

子供自身もきつと仲の良い仲間から離れ、一人知らない土地で知らない仲間と寮生活を送っていくか不安だったと思います。偶然にも同じクラスの友達が公務員試験に合格し中部の森林管理署に配属となり、学校から約十分の距離にあるため、少しは心強く思えたのは、私も子供も同じだったと思います。

実のところ、あれだけ心配していた寮生活は、同室の先輩が公私にわたり、本当によ



く面倒をみてくださり、よき相談相手になっていただいたようで、本当に有難いと感謝しています。同学年の方とも仲良くしていたとき、又、先輩のお誘いもあり、ソフト、野球と学校生活を楽しんでいく様子聞き、「案ずるより産むが易し」という言葉どおりと感じています。先生方も本当に温かい雰囲気の中で毎日を送らせていただいている事に、今は大変感謝しています。来年同じように不安を抱えて新人が入って来ると思いますが、今まで受けた恩を今度与えてあげられる先輩になってくれる事を期待しています。

2学年 木材商業論 (伊那木材センター研修)

そして、学業と共に人間形成も養ってくださる学校の風紀に頭が下がる思いです。その根本に広大な木曽の森林を守り、受け継いでいってほしいとの願いがある事も、先生方のお話などから良くわかりました。いづれ学校を巣立って社会へ出て行きますが、この学校で学んだ知識を活かし、大切な日本の財産である自然を守り活用し、また自然へと返す仕事に就く事が出来れば最高だと願っています。これからもご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

南の地より、感謝をいっしょに

朝田 栄子



鹿児島県・薩摩半島の最南端にある水産業の盛んな枕崎市で生まれ、太陽と黒潮の恵みを受けのんびりおっとり育った娘が、長野県林業大学校に進学を希望した時、その進路に誰よりも反対したのが、高校三年時のクラス担任です。

ろに清子を行かせて平気なんですか？」と。今でも先生との、そのやり取りを忘れることはできません。結局、娘の熱意に負け、最終的には林大合格を誰よりも喜んでくれた先生でした。

娘は長期休暇等で枕崎に帰ってくるたび、高校に顔を出し、林大での充実した学校生活を報告し、先生方を安心させています。娘は帰省して三日くらい過ぎると「あゝ、木曽に帰りたい」と言いますが、ちよつぱり寂しい気もしますが、それだけ木曽の生活に馴染んでいるのだと安心も

「縁もゆかりもない土地に、しかも林業？さらに全寮制！僕は心配です。お母さんは、そんなとこ



2学年 樹木医学実習 (阿智村 清南寺)

します。と同時に娘を大事に育て下さっている、林業大学の先生方、職員の方々ははじめ、寮母さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

また、娘を理解し、一緒に学び、生活を共にしている林大生の皆さんありがとうございます。色々とご迷惑をおかけしていると思います。(特に原野先生…すみません) 今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

第1回県民共学講座(森林生態学)



さて?!
トンネルの先には…
鈴木 逸子

早いもので、林業大学に入学してから二度目の秋がやって来ました。家に居る頃は長いトンネルの中に居るような反抗期が続

いていました。寮生活に入ると「良くなっていくのがわかる。」と前会長さんのお言葉がありました。が、なかなかその兆候は現れず、最近になり若干の変化が見られるようになりしました。

林大での生活は本人の性格に合っているらしく、心豊かな楽しい生活のようです。これからの人生でこの二年間の生活が決して忘れられないものとなるでしょう。

社会人になっても林大での経験を活かし、今以上に成長してくれる事を期待します。

今の思い

津田 好子



早いものです。林大生活も残りの日数が少なくなってきました。入寮日、山深い木曾路を走る車中の息子から、期待と不安の気持ちがひしひしと伝わってきたのを今でも思い出します。親としても寮生活をやっていただけるのかとても不安でした。

私は、息子が帰郷して戻るとき、送ります。その車中は、息子との会話時間にもなっています。家では、口数の少ない息子ですが、車中では、林大生活の話をよくしてくれま。私のとても愉しみな時間にもなっています。先日も授業に関係した話になり、微笑ましい時間を過ごせました。

今、思うのは、林大に進学したことは、間違いなかったということ。木曾での生活も愉しそうだし、この二年

間は、人生でとてもすばらしい生活が出来たと思います。これも、先生方、寮母さん、そして仲間達のおかげです。ありがとうございます。

後は、今までを活かせる就職先が見つかることです。これからもガンバレ!

息子への思い

平沢 紀子



自分から志望した林業大学校にお世話になり早いもので一年半が過ぎました。只今就

活中の息子は、小学生の頃から食べた果物等の種を蒔いて芽を出させたりして、自然には興味を持っていたと思います。家に帰って来る度に鉢植え植物の様子を見たり、学校で学んだ自然や森林の話をしている息子に触れ「ア、成長したな」と感じています。

里山整備、山に住む鳥獣との共生が言われだいが経ちますが、まだまだ山に手が入ら

ず、熊が出没する、猿が畑を荒らすなど様々な被害に悩まされています。私の勤める保育園の直ぐ近くに山が在ります。その山に登り、木々の中を駆け回って木と戯れさせたいという願いは中々叶えられません。こんなに自然豊かな場所に住みながら、その自然を活かしての遊びが出来ない事がとても残念です。そんな思いを、今林業の勉強をしている息子に託したいと思っています。

学校でお世話になっている先生方、そして林業大学校を支えて頂いている地域の方々に感謝し、学校で学んだ事を十分に活かして、これからの人生を頑張っていくて欲しいと思います。



第5回公開講座(草木染め)

初心
忘れるべからず



第14期生
遠山 哲治

林大を卒業して早十八年が経とうとしています。卒業後は多くの人との出会いがあり、多くのことを日々学んでいます。

「知識と知恵の
両立」を図る



教授
吉野 安里

学生に伝えたいことのひとつに「知識と知恵の両立」があります。知識をうまく組み合わせ、仕事の効率や精度を上げるのが知恵だと思います。

林道実習で測量の後、製図

檜の
アドバイス

にとりかかりました。よく見ると何回もやり直しをしています。林道では、道のりの二十mごと、カーブごとに区間分けします。学生たちは、ひとつの区間を描いては次の区間を描く方法で作業をしました。しかし、この方法では慎重に作業をしてもうまくいきません。鉛筆の芯には太さがあり、方眼紙の伸び縮みもあり、数値の四捨五入もあり、といった具合に誤差に誤差を加えていくのですから。始点近くの点を修正する

と、ほぼ全部の点に影響します。教室には疲労感が漂い始めました。それならば始点を基準にしてみよう。あらかじめ始点から各点までの距離を出しておき、図面上では始点から各点の位置に順次印をつけてゆきます。これならせいぜい鉛筆の芯の誤差です。あ

す。もう何回もやり直している。かえって遅い学生の方が、新方法で着実に図面を仕上げていました。ヒントを出すタイミングは難しいですね。さらに応用例です。ある長さを七等分したい。学生たちは仕事を始めました。長さを測り、電卓を取り出し、七で割って…という具合に。これはうまくない方法です。案の定、理屈どおりにはいかない。ではどうするか？この場合、七の倍数（七で割り切れ

現在は縁あって(株)長野県林業公社に勤務し、林業再生総合対策事業の一つである作業道開設に携わっております。作業道により、当面の搬出間伐だけでなく、将来の主伐も見据えた、低コストで長持ちする作業道を分収林内に積極的に開設し、林業経営改善を目的とする大きな事業です。この事業で既に、下伊那郡平谷村白沢団地に約一万m、飯田市南信濃梶谷団地約

七百m、伊那市御射山団地約千四百mの開設を担当しました。現在も伊那市御射山団地約四百mの工事も順調に進んでいます。去る六月十三日に伊那市御射山団地の工事期間内に、林大二年生に生の現場を見てもらえるという貴重な経験が生まれました。現場担当者である私が、学生に説明している姿は、それはそれは恥ずかしいやら、なめられたらいけない

やら、とても複雑な気持ちで現地を案内しました。もちろん質問は一切受けませんが、林大での二年間でいろんな体験や経験をどんどんして下さい。また、今しか出来ない寮生活を仲間と共にエンジョイして下さい。笑話の宝物になります。今回学生との交流が出来たのは、中村校長先生を始め多くの先生方の御協力があったからです。感謝申し上げます。

識があるからこそ、今の自分が

こうして頑張っていることを再認識出来ました。「初心忘れるべからず」ですね。林大での二年間でいろんな体験や経験をどんどんして下さい。また、今しか出来ない寮生活を仲間と共にエンジョイして下さい。笑話の宝物になります。今回学生との交流が出来たのは、中村校長先生を始め多くの先生方の御協力があったからです。感謝申し上げます。

す気力が失せてしまったからで

講義では、「知識」を学びます。実習は、「知恵」の涵養にもつてこの場です。原因は何か？こうすればどうか？うまくいくと面白い。自信もつく。誰かにも教えたくない。そして、別のどこかで役に立つ…となれば実習は大成功ですね。



我 ら 林 大 生 !



第19回
木曽福島駅伝大会で
4度目の優勝!!

水無神社
みこしまくり

1 学年
ほお葉巻き
体験



1 学年
郡植樹祭
(大桑村)



2 学年 保健休養学
(野外活動)



寮生活
(食事風景)

編集後記

三・一一以降、世界観が一変したように感じるのは、私だけでしょか。

原発の安全神話が崩壊し、当たり前に使っていた電気が、実は放射性物質の生成と引換えに享受していたという事実、大自然の猛威の前に人間はすべて平等であるという儼然たる事実、一方では、途方もない喪失感から復興へと向かう中で芽生えた地域の支え合いの力などなどです。

被害に遭い、犠牲となられた方々には、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

さて、林大の最近の話題はと言えば、やはり十月二日の木曽福島駅伝大会で林大Aチームが、並み居る強豪を退け通算四度目の優勝の栄冠を勝ち取ったことでしょうか。

これに象徴されるように、林大の特色でもある「全寮制」で培った団結力が、多方面で遺憾なく発揮されている「証」ではないかと感じずにはいられない、今日この頃です。(I)